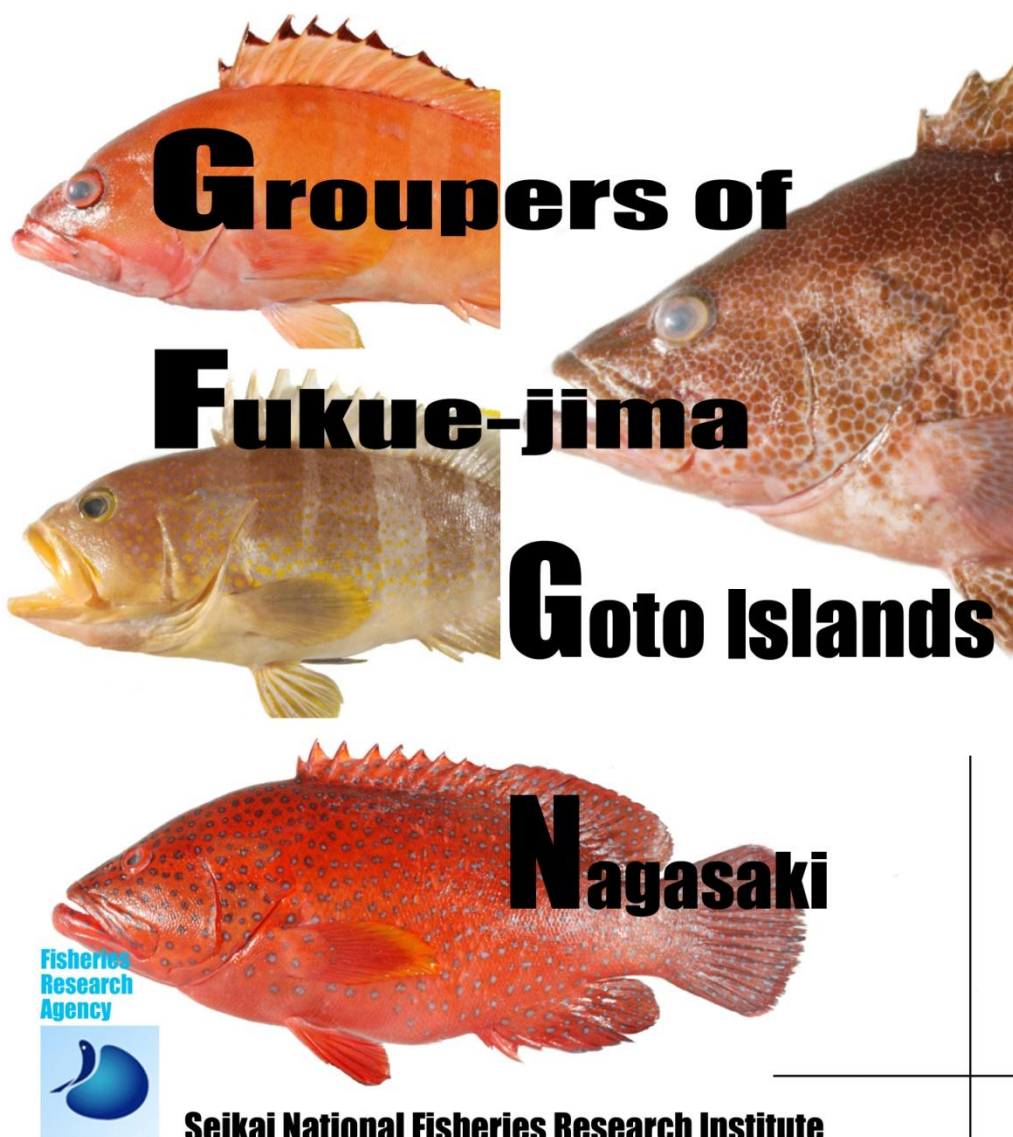


長崎県五島市福江島の ハタ類フィールドガイド



独立行政法人 水産総合研究センター
西海区水産研究所



目次

はじめに	2
おもな部位の名称	3
魚の名前について	4
このフィールドガイドの使い方	4
写真一覧	5
アカイサキ	7
アオハタ	8
アカハタ	9
イヤゴハタ	10
オオモンハタ	11
キジハタ	12
ク エ	13
コモンハタ	14
シロブチハタ	15
チャイロマルハタ	16
ハウキハタ	17
ハウセキハタ	18
マハタ	19
ユカタハタ	20
スジアラ	21

はじめに

このフィールドガイドは、おもに長崎県五島市の魚市場に水揚げされたハタ類を採集した標本に基づいて作成しました。漁業者や市場関係者の皆様が魚の出荷時などに、あるいは資源関係の調査員による市場調査などで、魚の名前を調べるためにご利用頂けましたら幸いです。

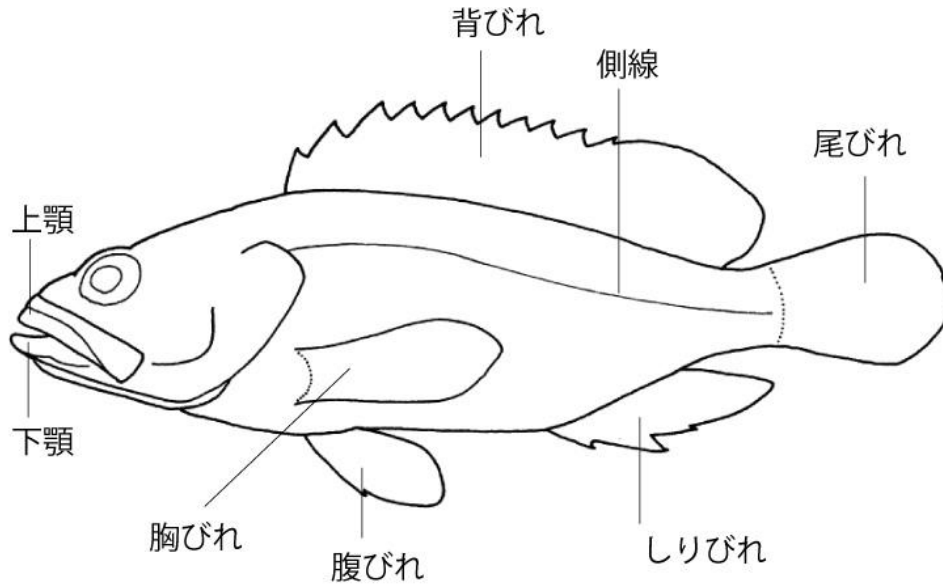
ハタ類とは、一般的にハタ科マハタ亜科の仲間（マハタ属のマハタ・クエなど、スジアラ属のスジアラ、ユカタハタ属のユカタハタなど）を指しますが、このフィールドガイドには、やや遠縁であるハタ科ハナダイ亜科のアカイサキも含め、2013年9月7日から10月22日にかけて採集された15種を掲載しました。

魚市場で標本を入手して下さった平山和嗣氏、採集にご理解・ご協力を頂いた大串清旨氏はじめ有限会社福江市魚市の皆様、このフィールドガイドを作成する機会を頂いた西海区水産研究所所長の與世田兼三博士、貴重なご助言を頂いた同研究所の青野英明博士、吉村 拓氏、清本節夫氏、標本の登録整理と画像処理に尽力頂いた松永裕子氏に厚く御礼申し上げます。なお、本フィールドガイド作成は平成25-26年度研究開発基盤強化費「(6) その他の活動費」および平成25-26年度研究事業費（実施細目：魚類標本の収集管理および利活用の促進）にて実施しました。

平成27年3月 著者一同

岡本 誠
星野浩一
島 康洋
野田 勉
堀田卓朗
吉田一範
水落裕貴
中川雅弘

おもな部位の名称



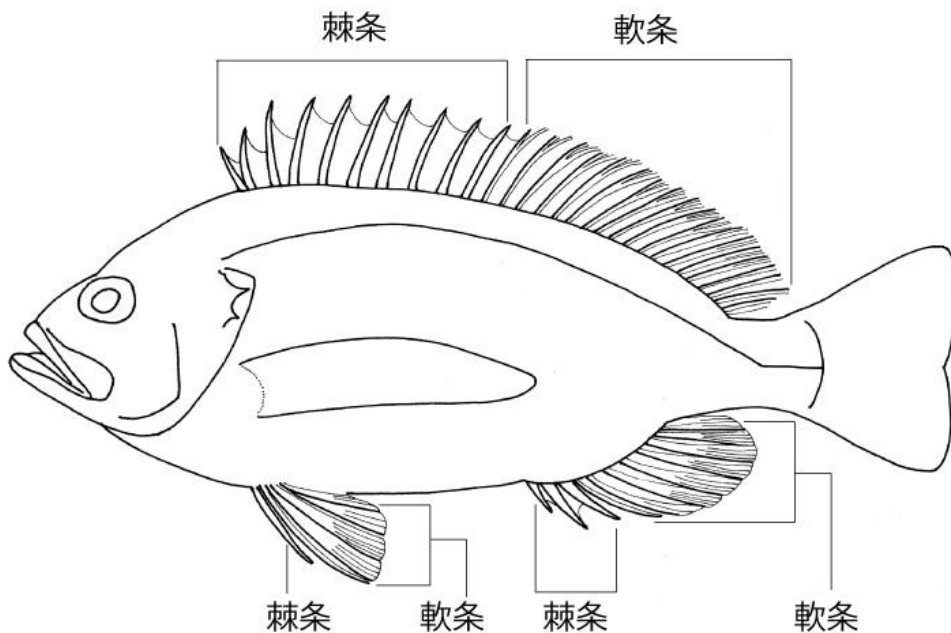
側線 そく せん：体の側面を走る線のように見えるが、水の振動を感知する感覚器官。

側線有孔鱗 そくせんゆうこうりん（または単に**側線鱗** そくせんりん）という特殊な鱗が並ぶことで形成される。

鰭条 き じょう：ひれを支持する扇の骨のようなスジ状の構造。次の2種類がある。

① **棘条** きよく じょう：硬くトゲ状で鋭い（単に棘ともいう）。魚を不用意に素手でつかむと、棘条が手に刺さって痛い目にあうことがある。ハタ類では、背びれ（8-11本）、しりびれ（3本）、腹びれ（1本）にある。

② **軟条** なん じょう：曲がりやすく柔軟で、先端が枝分かれする場合が多い。



魚の名前について

①**地方名**：同じ魚でも地域によりさまざまな呼び名があり，これらを地方名という．多様な地方名は，日本の魚食文化の多様性・豊かさの指標とも言え，今後とも大切に伝えてゆく必要がある．

②**標準和名**：全国共通の名前があった方が便利な場合があり，そのために作られた名前．このフィールドガイドの見出しにも標準和名を用いている．

③**学名**：動物学上正式な世界共通名で，ラテン語で表記される．人の名前を姓・名を組み合わせるのに似て，**属名**と**種小名**を組み合わせる用いる．

例) *Epinephelus akaara* (キジハタの学名)
(属名) (種小名)

属名とは，互いに近い種を集めたグループ(属)の名前．**種小名**とは，同じ属のメンバーの中から特定の種を示す名前．前者は姓名の姓，後者は名にあたる．

なお，学名の後に，その学名を命名・公表した人の名前(**著者名**)と学名が公表された年(**出版年**)を付ける場合がある．

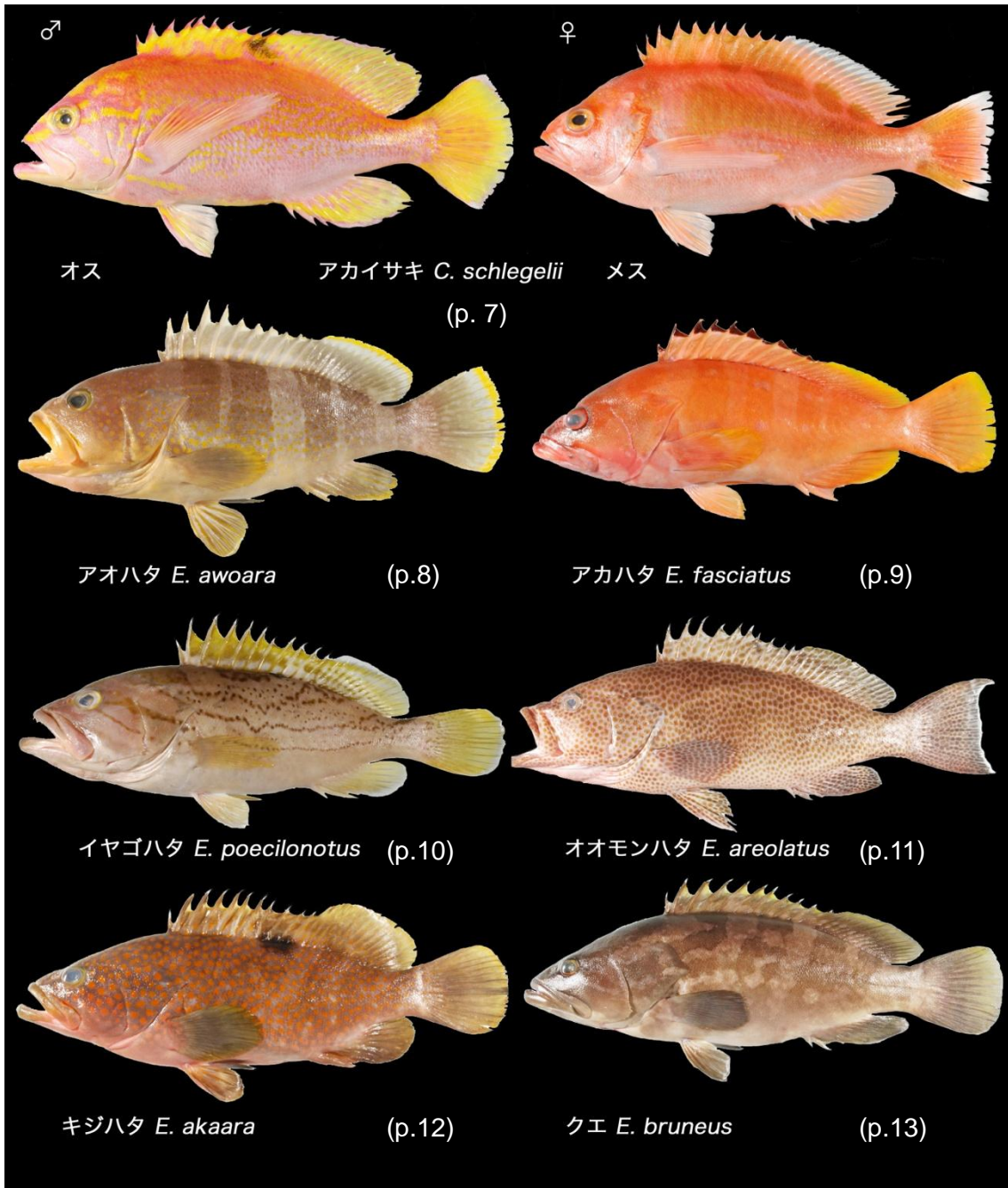
例) *Epinephelus akaara* (Temminck and Schlegel, 1842)
(著者名) (出版年)

キジハタの学名を命名したのは，オランダはライデン大学の動物学者テミンク(Temminck)とシュレーゲル(Schlegel)である．シーボルトが編纂して1842年に出版されたFauna Japonica(日本動物誌)の魚類編で公表された．そのためにテミンクらが観察した標本は，シーボルトらが長崎付近で採集してオランダに送ったものである．キジハタは当初 *Serranus* (セラヌス属)に含められたが，後の研究者が *Epinephelus* (マハタ属)に移した．このように学名の命名後に属が変更された場合，著者名と出版年をカッコに入れて表記する．

このフィールドガイドの使い方

1. 魚を「写真一覧」(p. 5-6)と比較して，魚種名の見当を付ける．
2. 魚を各魚種の解説(p. 7-21)に書かれた特徴と比較して，魚種名が正しいかどうか判断する．
3. 特徴の記述と一致しない場合は，再び1に戻る．また，よく似た別種がいる魚種には「類似種との区別」という項目を設けてあるので，そこに示された魚種の記述も参照する．

写真一覧





コモンハタ *E. epistictus* (p.14)



シロブチハタ *E. maculatus* (p.15)



チャイロマルハタ *E. coioides* (p.16)



ホウキハタ *E. morrhu* (p.17)



ホウセキハタ *E. chlorostigma* (p.18)



マハタ *E. septemfasciatus* (p.19)



ユカタハタ *C. miniata* (p.20)



スジアラ *P. leopardus* (p.21)

アカイサキ (アカイサキ属)

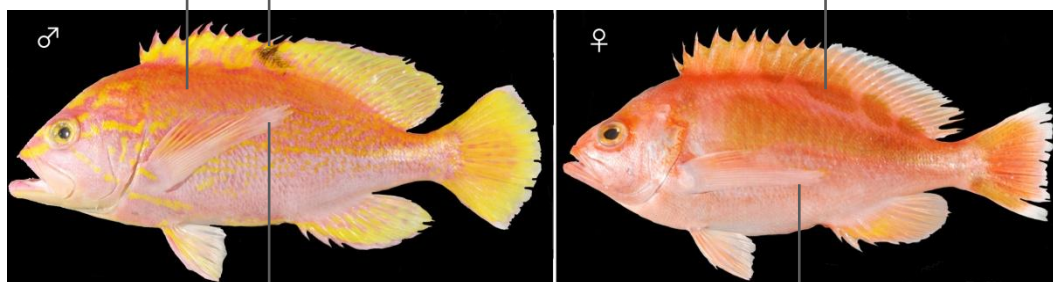
地方名 (福江島周辺) : アカイサキ

学名 : *Caprodon schlegelii* (Günther, 1895)

体は赤色，オスは
黄色みを帯びる

オスは背びれに
1 黒斑がある

メスは背中に 3-4 個の
赤または褐色斑がある



胸びれは長く，後端はしりびれに届く

背びれ : 10 棘, 19~21 軟条 ; しりびれ : 3 棘, 7~9 軟条 ; 胸びれ : 16~17 軟条 ;
側線有孔鱗数 : 57~61.

特徴 : 背びれの棘は 10 本. 胸びれは著しく長く，その後端はしりびれに達する.
体の背部は赤色で，腹部は淡色. オスでは背びれに 1 黒斑がある. メスでは背中に
3-4 個の赤または褐色の斑紋がある. ひれは淡黄色で，オスでは黄色が濃い. オスで
は眼の周囲に放射状の黄色く細い帯状の斑紋がある. 最大で体長約 45 cm.

利用方法 : 刺身，ムニエル，唐揚げ，しゃぶしゃぶなど.

漁法と漁期 : 一本釣り，延縄，刺し網，底引き網. 年中見られる.

分布 : 南日本，朝鮮半島，台湾，オーストラリア，ハワイ諸島，チリの沿岸域 (水
深 40 m~300 m).

掲載標本 : (♂) SNFR 19500, 全長 425 mm ; (♀) SNFR 19501, 全長 362 mm.

アオハタ (マハタ属)

地方名 (福江島周辺) : アオナ

学名 : *Epinephelus awoara* (Temminck and Schlegel, 1842)

頭部と体には黄色い
斑点が多数ある

体には5本の縞模様がある



背びれの後部, しりびれ, 尾びれは黄色く縁取られる

背びれ : 11 棘, 15~16 軟条 ; しりびれ : 3 棘, 8~9 軟条 ; 胸びれ : 17~19 軟条 ;
側線有孔鱗数 : 49~55.

特 徴 : 背びれの棘は 11 本. 尾びれは丸い. 胸びれと腹びれは短い. 頭部・体には黄色い斑点が多数ある. 体には茶色い縞模様が 5 本ある. 背びれなどは黄色く縁取られる. 最大で体長約 45 cm.

利用方法 : 刺身, 煮付け, 鍋, 塩焼き, ムニエル.

漁法と漁期 : 一本釣り, 延縄, タコ壺. 年中見られるが, 漁獲盛期は春.

分 布 : 南日本, 朝鮮半島, 中国, 台湾, フィリピン諸島沿岸の浅い岩礁や砂泥底 (水深 数 m~50 m).

掲載標本 : SNFR 19472, 全長 292 mm.

アカハタ (マハタ属)

地方名 (福江島周辺) : アカジョ

学名 : *Epinephelus fasciatus* (Forsskål, 1775)

背びれの前半部は黒く縁取られる



体は赤く，紅色の縞模様が5本ある

背びれ : 11 棘, 15~17 軟条 ; しりびれ : 3 棘, 7~8 軟条 ; 胸びれ : 18~20 軟条 ;
側線有孔鱗数 : 55~60.

特徴 : 背びれの棘は 11 本. 尾びれは丸い. 胸びれと腹びれは短い. 体は淡黄色から赤色で, 体側には紅色の縞模様が 5 本ある. 背びれの前半部の上縁は黒く縁取られる. 背びれの後半部, しりびれ, および尾びれは黄色く縁取られる. 最大で体長約 45 cm.

利用方法 : 刺身, 煮付け, 鍋, 焼き物, 中華風蒸し物, 唐揚げ, 吸い物.

漁法と漁期 : 一本釣り, 延縄, 刺し網, 定置網. 年中見られるが, 漁獲盛期は夏~秋.

分布 : 南日本, インド-太平洋の沿岸の浅い岩礁やサンゴ礁 (水深 数 m~160 m).

掲載標本 : SNFR 19493, 全長 312 mm.

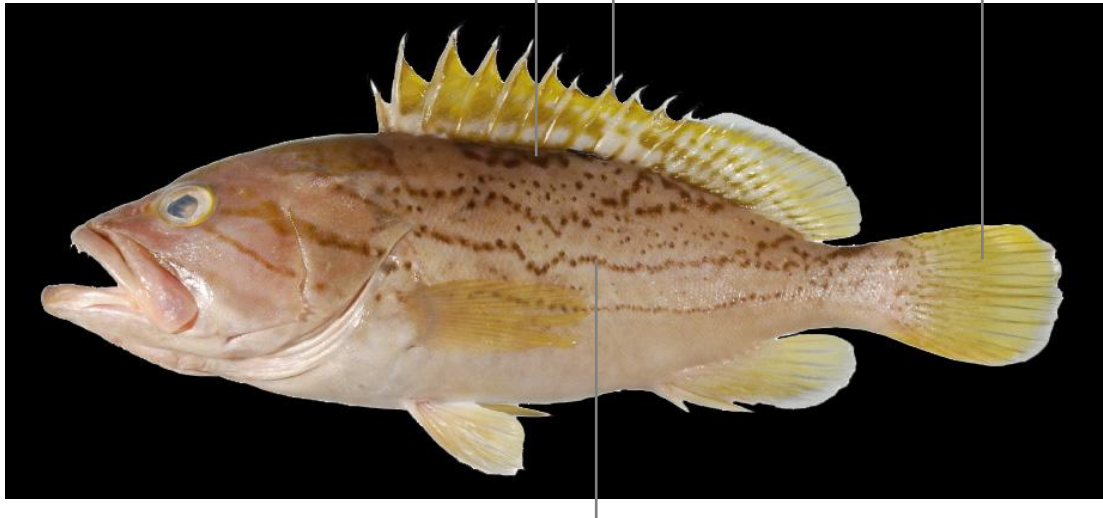
イヤゴハタ (マハタ属)

地方名 (福江島周辺) : モアラ

学名 : *Epinephelus poecilonotus* (Temminck and Schlegel, 1842)

背びれ前部の付け根に楕円形の斑紋がある

ひれは黄色い



体の斑紋が弧を描くように並ぶ

背びれ : 11 棘, 14~15 軟条 ; しりびれ : 3 棘, 8 軟条 ; 胸びれ : 17~19 軟条 ; 側線有孔鱗数 : 54~65.

特徴 : 背びれの棘は 11 本. 尾びれは丸い. 胸びれと腹びれは短い. 体は淡褐色で, 小斑紋で形成される弧状の模様がある (大型は不明瞭). 背びれ前部の付け根に大きな楕円形の斑紋がある. 背びれに黄色の斑紋があり, その他のひれは黄色い. 背びれ・尾びれ・しりびれ・腹びれの縁辺は白く縁取られる. 最大で体長約 55 cm.

類似種との区別 : ホウキハタ (p. 17) とは, 体の上半部の斑紋が弧を描く (ホウキハタでは斜め縞である) ことで区別できる.

利用方法 : 刺身, 煮付け, 鍋, 焼き物.

漁法と漁期 : 一本釣り, 延縄. 年中見られるが, 漁獲盛期は夏.

分布 : 南日本, 西部北太平洋, インド洋の沿岸の岩礁 (水深 数 m~375 m).

掲載標本 : SNFR 19533, 全長 325 mm.

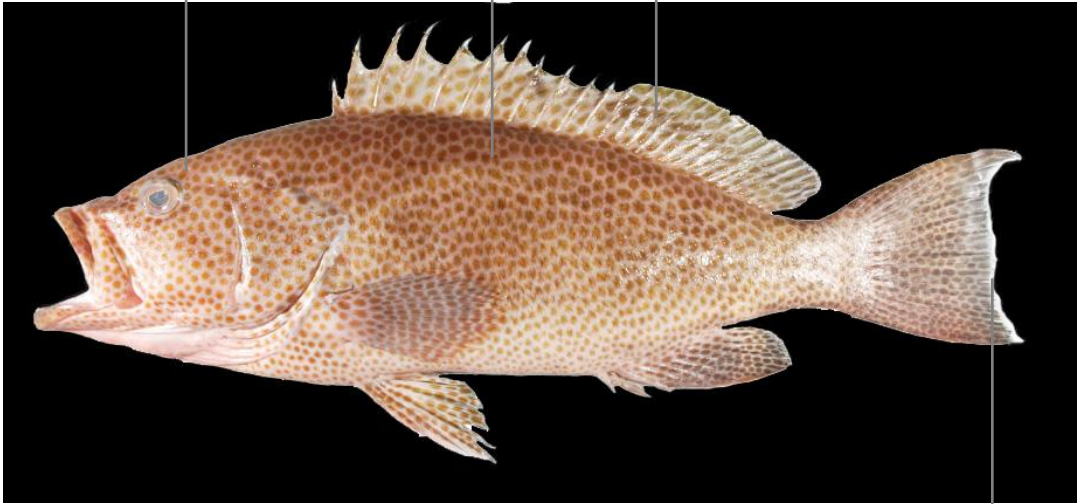
©独立行政法人水産総合研究センター

オオモンハタ (マハタ属)

地方名 (福江島周辺) : ハカマ

学名 : *Epinephelus areolatus* (Forsskål, 1775)

頭部・体・ひれに茶色の斑点が多数あり，網目模様を形成する



尾びれに白い縁取りがある

背びれ : 11 棘, 15~17 軟条 ; しりびれ : 3 棘, 7~8 軟条 ; 胸びれ : 17~19 軟条 ;
側線有孔鱗数 : 49~53.

特徴 : 背びれの棘は 11 本. 胸びれと腹びれは短い. 体は淡褐色. 頭部・体・鰭に茶色の斑点が多数あり網目模様を形成する (斑点の大きさは成長するに従って体の大きさに対して小さくなる). 尾びれ後縁はほぼ垂直かややへこむ. 尾びれの後縁は白く縁取られる. 最大で体長約 55 cm.

類似種との区別 : ホウセキハタ (p. 18), シロブチハタ (p. 15) とは尾びれに白い縁取りがあることで区別できる. また, ホウセキハタとは斑点がより疎らであること, シロブチハタとは背びれ中央に白っぽい領域がないことで区別できる.

利用方法 : 刺身, 煮付け, 鍋, 焼き物.

漁法と漁期 : 一本釣り, 延縄. 年中見られるが, 漁獲盛期は夏~秋.

分布 : 南日本, インド洋-西太平洋の沿岸の岩礁やサンゴ礁 (水深 数 m~200 m).

掲載標本 : SNFR 19536, 全長 480 mm.

©独立行政法人水産総合研究センター

キジハタ (マハタ属)

地方名 (福江島周辺) : アコ, アコウ

学名 : *Epinephelus akaara* (Temminck and Schlegel, 1842)

背びれの付け根中央に, ふつう大型の黒斑が1個ある



頭部・体に橙色の斑点が多数ある

背びれ : 11 棘, 15~17 軟条 ; しりびれ : 3 棘, 8~9 軟条 ; 胸びれ : 17~19 軟条 ;
側線有孔鱗数 : 50~54.

特徴 : 背びれの棘は 11 本. 尾びれは丸い. 胸びれと腹びれは短い. 体は茶褐色で,
橙色の斑点が密集する. 体側に白色の縞模様をもつ個体もいる. 背びれ付け根の中央
に大型の黒斑が 1 個ある (まれに不明瞭なこともある). 各ひれは黄色い. 最大で体
長約 40 cm.

利用方法 : 刺身, 煮付け, 鍋, 焼き物.

漁法と漁期 : 一本釣り, 延縄, 刺し網, 定置網. 年中見られるが, 漁獲盛期は春~秋.

分布 : 東北~九州. 朝鮮半島, 台湾, 中国の沿岸の浅い岩礁 (水深 数 m~50 m).

掲載標本 : SNFR 19462, 全長 325 mm.

ク エ (マハタ属)

地方名 (福江島周辺) : アラ

学名 : *Epinephelus bruneus* Bloch, 1793

6本前後の暗色で不規則な斜め縞がある (大型個体では不明瞭)



口は大きく、上顎の後端は眼の後縁より後方に達する

ひれはやや黄色い

背びれ : 11 棘, 13~15 軟条 ; しりびれ : 3 棘, 8~9 軟条 ; 胸びれ : 17~19 軟条 ;
側線有孔鱗数 : 64~72.

特徴 : 背びれの棘は 11 本. 尾びれは丸い. 胸びれと腹びれは短い. 体は淡褐色で,
体側に 6 本前後の不規則な斜め縞がある (大型個体では体全体が茶褐色になる). 口
は大きく、上顎の後端は眼の後縁より後方に達する. 各ひれはやや黄色い. 最大で体
長 1.5 m.

利用方法 : 刺身, 鍋, 煮付け, 焼き物.

漁法と漁期 : 一本釣り, 延縄, 刺し網, 定置網, 突き. 年中見られるが, 漁獲盛期は
秋~冬.

分布 : 青森県から九州の日本海側, 東シナ海, 相模湾から九州の太平洋側, 朝鮮半
島, 台湾, 中国の沿岸の岩礁, アマモ場, 砂泥底 (水深 数 m~200 m).

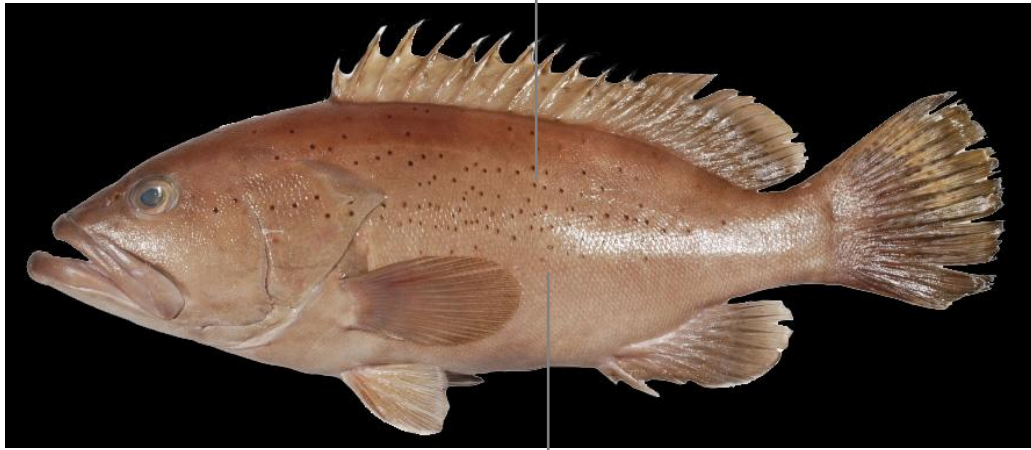
掲載標本 : SNFR 19488, 全長 407 mm.

コモンハタ (マハタ属)

地方名 (福江島周辺) : モアラ

学名 : *Epinephelus epistictus* (Temminck and Schlegel, 1842)

小黑点が散在する (頭部は少数)



一様に茶褐色

背びれ : 11 棘, 13~15 軟条 ; しりびれ : 3 棘, 7~8 軟条 ; 胸びれ : 16~19 軟条 ;
側線有孔鱗数 : 55~71.

特 徴 : 背びれの棘は 11 本. 尾びれは丸い. 胸びれと腹びれは短い. 体は一様に茶褐色で, 小黑点が頭部に少数, また体の上部に散在する. 各ひれは淡褐色で, 背びれと尾びれにも小黑点がある. 最大で体長約 70 cm.

利用方法 : 刺身, 鍋, 煮付け, 焼き物.

漁法と漁期 : 一本釣り, 延縄. 年中見られるが, 漁獲盛期は秋~冬.

分 布 : 若狭湾から九州の日本海側, 東シナ海, 相模湾から九州の太平洋側, 朝鮮半島, 台湾, 中国の沿岸, インド-西太平洋の岩礁や砂泥底 (水深 40~300 m).

掲載標本 : SNFR 19600, 全長 485 mm.

シロブチハタ (マハタ属)

地方名 (福江島周辺) : 地方名なし

学名 : *Epinephelus maculatus* (Bloch, 1790)

背びれの中央は白っぽい



頭部・体・ひれに黒または茶色の斑点が密集する
体の斑点は瞳より大きい

背びれ : 11 棘, 15~17 軟条 ; しりびれ : 3 棘, 8~9 軟条 ; 胸びれ : 17~19 軟条 ;
側線有孔鱗数 : 48~52.

特徴 : 背びれの棘は 11 本. 尾びれはやや丸い. 胸びれと腹びれは短い. 頭部・体・
ひれに黒または茶色の斑点がある. 体の斑点は瞳より大きい. 背びれの中央は白っぽ
い. 最大で体長約 50 cm.

類似種との区別 : オオモンハタ (p. 11), ホウセキハタ (p. 18) に似るが, 背びれの
中央に白っぽい部分があること, 体の斑点が瞳より大きいことで区別できる.

利用方法 : 刺身, 鍋, 煮付け, 焼き物.

漁法と漁期 : 一本釣り, 延縄. 漁獲は稀.

分布 : 相模湾から屋久島の太平洋側, 琉球列島, 香港, 西太平洋沿岸の岩礁やサン
ゴ礁 (水深 数 m~100 m).

掲載標本 : SNFR 19590, 全長 460 mm.

©独立行政法人水産総合研究センター

チャイロマルハタ (マハタ属)

地方名 (福江島周辺) : 地方名なし

学名 : *Epinephelus coioides* (Hamilton, 1822)



背びれ : 11 棘, 13~16 軟条 ; しりびれ : 3 棘, 8 軟条 ; 胸びれ : 18~21 軟条 ; 側線有孔鱗数 : 58~66.

特徴 : 背びれの棘は 11 本. 尾びれは丸い. 胸びれと腹びれは短い. 体側には茶褐色の横帯が 5 本前後あり, 赤褐色の斑点が多数ある (ただし, 個体によっては茶褐色から黄褐色). ひれには黒斑があり, やや黄色みを帯びるが, 大型個体では尾びれや背びれの後半部は黒くなる. 最大で体長約 85 cm.

利用方法 : 刺身, 鍋, 煮付け, 焼き物.

漁法と漁期 : 一本釣り, 延縄. 漁獲は稀.

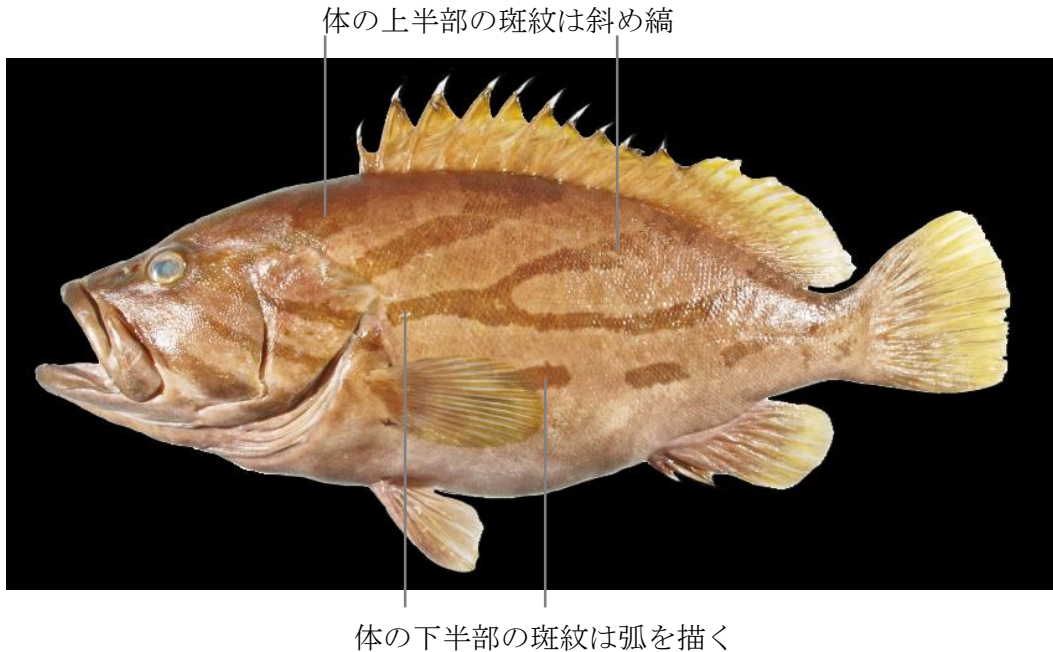
分布 : 新潟から九州の日本海側, 東シナ海, 和歌山県から九州の太平洋側, 台湾, 中国, インド-西太平洋の沿岸の岩礁や汽水域 (水深 数 m~100 m).

掲載標本 : SNFR 19547, 全長 106 mm. 上の写真は, 長崎県五島市・玉之浦にある西海区水産研究所・五島庁舎前の海で採集された小型個体.

ホウキハタ (マハタ属)

地方名 (福江島周辺) : モアラ

学名 : *Epinephelus morrhua* (Valenciennes, 1833)



背びれ : 11 棘, 14~15 軟条 ; しりびれ : 3 棘, 7~8 軟条 ; 胸びれ : 17~18 軟条 ;
側線有孔鱗数 : 55~64.

特徴 : 背びれの棘は 11 本. 尾びれは丸い. 胸びれと腹びれは短い. 体は淡褐色で,
体側の上半部には茶色の斜め縞があり, 下半部には弧状の斑紋がある. 眼の後方にも
斜め縞がある. ひれはやや黄色い. 最大で体長約 80 cm.

類似種との区別 : 体の斑紋が弧を描くことでイヤゴハタ (p. 10) と似るが, 体の上半
部の斑紋が斜め縞である (イヤゴハタでは弧を描く) ことで区別できる.

利用方法 : 刺身, 鍋, 煮付け, 焼き物.

漁法と漁期 : 一本釣り, 延縄. 年中見られるが, 漁獲盛期は夏~秋.

分布 : 相模湾から九州の太平洋側, 沖縄, 台湾, 香港, インド-太平洋の沿岸の岩
礁 (水深 10~370 m).

掲載標本 : SNFR 19499, 全長 540 mm.

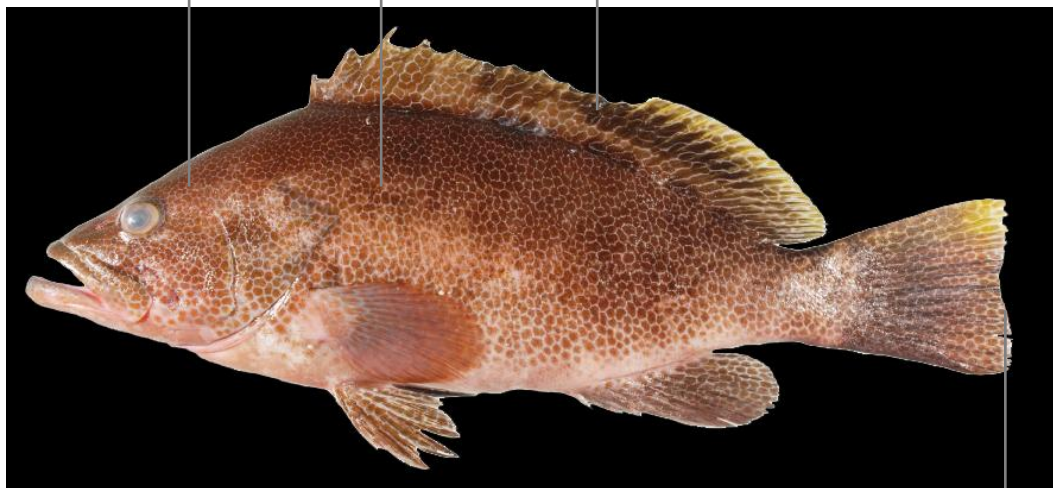
©独立行政法人水産総合研究センター

ホウセキハタ (マハタ属)

地方名 (福江島周辺) : ハカマ

学名 : *Epinephelus chlorostigma* (Valenciennes, 1828)

頭部・体・ひれに褐色の斑点が密集し，網目模様を形成する



尾びれに白い縁取りはない

背びれ : 11 棘, 16~18 軟条 ; しりびれ : 3 棘, 8 軟条 ; 胸びれ : 17~19 軟条 ; 側線有孔鱗数 : 50~53.

特徴 : 背びれの棘は 11 本. 尾びれはほぼ垂直かやや丸く突出する. 胸びれと腹びれは短い. 頭部・体・ひれには暗色の斑点が密集し，網目模様を形成する. 斑点は大型個体ほど体の大きさに対して小さくなる. 尾びれの後縁に目立った白い縁取りはない (大型個体ではまれに白くなるが，目立たない程度). 最大で体長約 70 cm.

類似種との区別 : オオモンハタ (p. 11) とは尾びれに白い縁取りがないこと，斑点がより密集することで，シロブチハタ (p. 15) とは背びれ中央に白っぽい部分がないこと，斑点が瞳より小さいことで区別できる.

利用方法 : 刺身，鍋，煮付け，焼き物.

漁法と漁期 : 一本釣り，延縄. 漁獲盛期は夏~秋だが，比較的稀.

分布 : 九州西岸，相模湾から九州の太平洋側，瀬戸内海，沖縄，台湾，香港，インド-西太平洋の沿岸の岩礁 (水深 数 m~280 m).

掲載標本 : SNFR 19564, 全長 400 mm.

©独立行政法人水産総合研究センター

マハタ（マハタ属）

地方名（福江島周辺）：タカバ

学名：*Epinephelus septemfasciatus* (Thunberg, 1793)



背びれ：11棘，13～16軟条；しりびれ：3棘，9～10軟条；胸びれ：17～19軟条；
側線有孔鱗数：63～71.

特徴：背びれの棘は11本．尾びれは丸い．胸びれと腹びれは短い．体は淡褐色で，
7～9本の暗色の縞模様があるが，大型になると不明瞭になり体全体が黒くなる．尾
びれ，背びれ，しりびれは白く縁取られる．最大で体長約1.5 m.

利用方法：刺身，鍋，煮付け，焼き物.

漁法と漁期：一本釣り，延縄．年中見られるが，漁獲盛期は秋～冬.

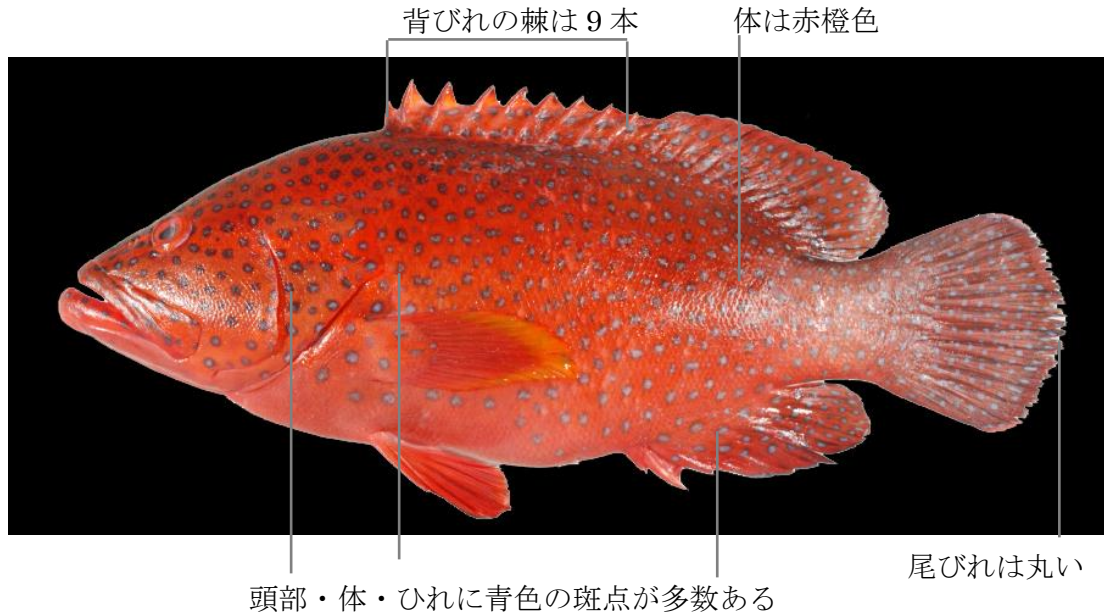
分布：北海道から九州南岸の日本海，東シナ海，仙台湾から九州南岸の太平洋側，
瀬戸内海，伊豆大島，小笠原諸島，朝鮮半島，香港（水深 数 m～300 m）.

掲載標本：SNFR 19483，全長 370 mm.

ユカタハタ（ユカタハタ属）

地方名（福江島周辺）：地方名なし

学名：*Cephalopholis miniata* (Forsskål, 1775)



背びれ：9 棘，14～16 軟条；しりびれ：3 棘，8～9 軟条；胸びれ：17～18 軟条；側線有孔鱗数：47～55.

特徴：背びれの棘は 9 本. 尾びれは丸い. 胸びれと腹びれは短い. 体は赤橙色. 頭部，体，ひれに青色の斑点が多数ある. 最大で体長約 40 cm.

類似種との区別：スジアラ (p. 21) とは体が赤橙色であること，青い斑点が多数あることで似るが，尾びれが丸い（スジアラでは湾入する）こと，背びれの棘が 9 本（スジアラでは 8 本）であることで区別できる.

利用方法：刺身，鍋，煮付け，焼き物.

漁法と漁期：一本釣り，延縄. 漁獲は稀.

分布：九州北西岸，駿河湾から屋久島の太平洋側，小笠原諸島，琉球列島，台湾，インド-太平洋の沿岸の岩礁やサンゴ礁（水深 数 m～150 m）.

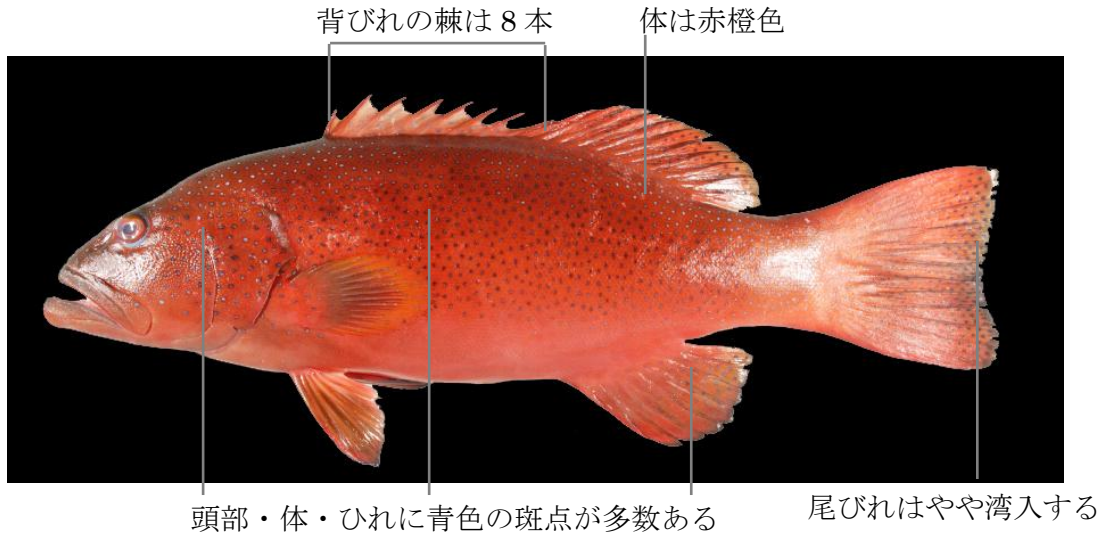
掲載標本：SNFR 19548，全長 335 mm.

©独立行政法人水産総合研究センター

スジアラ (スジアラ属)

地方名 (福江島周辺) : アカアラ

学名 : *Plectropomus leopardus* (Lacepède, 1802)



背びれ : 8 棘, 11 軟条 ; しりびれ : 3 棘, 8 軟条 ; 胸びれ : 14~17 軟条 ; 側線有孔鱗数 : 81~99.

特徴 : 背びれの棘は 8 本. 尾びれはやや湾入する. 胸びれと腹びれは短い. 体は赤橙色. 青色の斑点が頭部, 体, ひれに多数存在する. 最大で体長約 70 cm.

類似種との区別 : ユカタハタ (p. 20) とは体が赤橙色であること, 青色の斑点が多数あることで似るが, 尾びれが湾入する (ユカタハタでは丸い) こと, 背びれの棘が 8 本 (ユカタハタでは 9 本) であることで区別できる.

利用方法 : 刺身, 鍋, 煮付け, 焼き物.

漁法と漁期 : 一本釣り, 延縄, 突き. 年中見られるが, 漁獲盛期は夏~秋.

分布 : 長崎県, 相模湾から屋久島の太平洋側, 山口県 (日本海側), 小笠原諸島, 琉球列島, 朝鮮半島, 台湾, 香港, 西太平洋, オーストラリア北西岸の沿岸の岩礁やサンゴ礁外縁 (水深 数 m~100 m).

掲載標本 : SNFR 19562, 全長 435 mm.

独立行政法人 水産総合研究センター
西海区水産研究所

平成 27 年 3 月 発行

〒851-2213 長崎市多以良町 1551-8

Tel: 095-860-1600; Fax: 095-850-7767



**Groupers of
Fukue-jima
Goto Islands**

NAGASAKI